

企業研修の報告

2022年11月22日(火)、経済学・経営学メジャー所属の2年次生は、メジャー基礎ゼミナールⅡの授業の一環として、企業研修に出掛けました。当日は、清々しい晴天で、無事になめがたファーマーズヴィレッジほか各施設に足を運ぶことができました。

さて、経済学・経営学メジャー2年次生が参加するこの行事は、すでに9年目を迎えます。新型コロナウイルス感染拡大の影響から、一昨年は学内での講演形式とし昨年はグループ単位での研修に留めていましたが、今年度は3年ぶりに大型バス2台を借り上げ、一堂に会した研修を実施することができました。

最初に訪問したなめがたファーマーズヴィレッジは、今回が3回目でした。同施設を運営する母体となる白ハト食品工業は関西に販売チャンネルが多いため、関東ではあまり知られていません。しかし、同社は行方市やJAと協力して組織を設立することで、現在の「なめがたファーマーズヴィレッジ」が存在しています。同施設は順調に規模を拡大し、サツマイモの加工工場や貯蔵施設は幅広いサツマイモの利活用を可能にしているほか、グランピング施設を設置し観光資源としても地域社会に貢献しています。現在は、行方で蓄積したノウハウを活かし、福島県楡葉町でのサツマイモ栽培から出荷を手掛けており、被災地復興の大きな力にもなっています。農業の六次産業化の希望の星でもある同施設には、若手社員が多数集まっており、我々は現地に訪問することで、茨城の新たな可能性を感じる機会になりました。

午後は、イーアスつくばとモノタロウ笠間ディストリビューションセンターに分かれて研修を行いました。イーアスつくばは大和ハウス工業が手掛ける商業施設の中でも、平日、土日祝日の両方とも多くの来訪者でにぎわう全国でも有数のショッピングセンターです。学生は、同施設が開発された当時のコンセプトや現在までの経緯など、講演でさまざまな内容を伺いました。とりわけ、近年は郊外型の商業施設が増加し競争が熾烈になっていることや、近年の急激なファッションテナントの出店意欲の低下、オンラインショッピングの普及による顧客行動の変化があり、それは同施設の運営にも少なからず影響を与えています。地域社会に浸透し安定的に顧客から支持される基盤を築く一方で、陳腐化しないための施策を講じる必要があります。学生にとって、普段気軽に足を運んでいる施設には、こうしたさまざまな挑戦や課題が存在することを、学生は肌で感じる機会になりました。

モノタロウ笠間ディストリビューションセンターは、茨城中央の施設と相互補完することで、同社が担う物流のうち東日本全体をフォローしています。近年の成長著しい同社は、取り扱いアイテムを増加させる一方で、ネジ1つでも受注し発送するきめの細かさに特徴があります。研修では、複雑で多様な物流をどのように管理しているのかを目の当たりにする機会になりました。施設内は最新のマテハン機器が導入され、自動化されたものが数多い一方で、複雑な作業はヒトが担うケースが多く、ヒトの器用な特性を活かしたオペレーションとなっていたのが特徴でした。今後、茨城県内での雇用が増えることも示され、最先端のオペレーションを構築できる新しいキャリアの展望が茨城にも存在することを、貴重な機会となりました。

学生にとっては、企業活動の実際を知る貴重な場となりました。何より本学、そして、経済学・経営学メジャーの学生であるという帰属意識を感じる貴重な行事です。当日は天候にも恵まれ、学生の前向きな姿勢も加わり素晴らしい行事となりました。これも、後援会の支援の賜物です。末筆ではございますが、皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。



